

清水「生死の文法・文化・臨床」への質問・コメントと回答

講義内容について

回答済	K	若者がよく使う「死ぬ」例えば「テスト死んだー」はどう意味するのか。
	L	死イコール魂の完全な消滅ととらえる文化は受け入れられにくいものなのではないでしょうか？
	M	〈質問〉「～年間死んでいる」とは言いませんが「既に亡くなっている」とは言います。それはどのような考え方の違いがあるのでしょうか。
	N	My father has been dead for ten years.この文は受験で「私の父が死んで10年になる。」などと訳します。英語圏の生死観としては、肉体 (body) と魂 (soul) は区別するそうです。彼らの発想としては、「私の父の“肉体”は10年間 dead の状態ですよ。」となる訳です。魂は永久に不滅なので、日本人にはない発想なので、直訳すると我々は違和感を覚えるのだそうです。予備校の先生に教わりました。
	P	人間は、死というものを他者の死というかたちで経験しえないでしょう。自己の死は、それへと向かう dying というものとしては経験し得ると思いますが、死体はもはや何も経験しない。死は他者のものでしかない。そのような死を人間が恐れるのはやや不自然であって、私には、死に至る生を恐れている、と述べた方が妥当だと思われまます。
	Q	完全に孤独な人が別世界に行く際、他人とつながっていることが動機になると思えない。
質問	死んでこの世にいないから現在完了時制は日本語では違和感があると言いましたが未来完了や過去完了では違和感なく使えると思うのですがどう思いますか。(その時には死んでいないだろうとかその時には死んでいました)	
回答	「xは死んでいます」や、「xは10年前からずっと死んでいます」は、現在どこかに存在するxを指して語る語り方になるので、現在不在のxについて述べられないのです。「xはあの世にいます」は、あの世という領域を想定し、そこも話題領域にして語るのでOKです。で、未来完了の場合、現在存在するxを指した上で、そのxについての未来の状況を語るのでOKです。日本語の「その(過去の)時点ですでに死んでいました」は、その過去の時点にどこかに存在するxについて、その時点で「死んでいる」という状態になっているという意味ではなく、その時点で、すでに「死んでしまっている」つまり、その前のどこかの時点で「死んだ」ということが起きていた、という意味に解せるので、そう解しつつOKになるのです。	
コメント	死について言葉で説明するとき、生前の人の姿を主語とするか、死んだ後の姿を主語にするかによって言い方がまったく異なることが分かった。〇〇はもう亡くなったという言い方をするのは日本人の考え方であるのかなと思った。	
回答	死んだ後の姿を主語にできないのが、日本語「死ぬ」が「亡くなる」という意味を伴う場合の用法だという理解をしておられるのなら、その理解に賛同します。	
コメント	A「休暇中に祖父母の家に帰ったそうですね。祖父母に会いましたか」 B「ええ。ただ祖父はもう他界して(死んでいて)、祖母に会いました」 というような場合、祖父は生きていたときの状態が意識されると同時に、死という“瞬間”をすでに通っているかが意識されていると思った。	
回答	質問文の()内の「死んでいて」は、「死ぬ」という事がすでに起きているという意味だと考えます。そのことを「死という瞬間をすでに通っている」と表現しておられるのなら、同意します。	
質問	交流がないと「人」として生きているとはいえない、ということでしょうか。	
質問	人のいのちの見方の1つとして「物語られるいのち」があるが、人々と交わらずに独りで生きている人は、語られることもないから、「死んでいる」と言えるのではないか。このように考えると、独りで修業をする僧などは「死者」と呼ぶべきなのか。何故「世捨て人」と呼んだりするのだろうか。	
回答	他者との交流なしに生きている人の人生はどのようになっているかを個別に考える必要があるように思います。自分と対話しながら、あるいはコンパニオンである犬と交流しながら生きている、そこでなんらかの言語を使って、対話、交流をしているのなら、その人は人同士の交流に準じる交流があると言えるのではないかと思います。それで納得できていればよいですが、通常人はそこで孤立・孤独を感じるもので・・・	
質問	死んだら「別世界へ行く」という考え方は、死んでも1人じゃないという考えからだ、ということですが、天国と地獄があるという考え方もそれなのではないでしょうか？地獄に行っても仲間がいるのでしょうか？	
コメント	死の恐怖を和らげるために死後の世界想定する一方で、地獄といったような、死への不安をかきたてるような世界も存在することが面白いと感じる。それは道徳心を養成するもので、講義とは直接関係ないかもしれない。	
質問	「天国」という考えは利己的過ぎないか？	

回答	天国・地獄は、現在をどう生きるかに連動する考えで、仏教が入ってくる以前の日本の文化にはなかったと思われます。地獄では孤独という苦しみも味わうと教えられるでしょう。だから、そこに行かないですむように、現世で清く正しく生きましようという教えになるわけですね。
質問	「ひとりぼっちになりたくない」ため「他界する」と表現するとうかがいました。しかし天皇様がお亡くなりになると「おかくれになる」と表現します。これは人々から見られないところに行く→ひとりぼっちになる、と連想されるのですが、天皇様を「ひとりぼっちにする」この表現についてどう思いますか。
回答	「ひとりぼっち」になりたくないため「他界する」のではなく、「ひとりぼっちになりたくない」という思いを実現する死後のあり方を想像し、みなで語ることで創造しているのだと言ったつもりです。「おかくれになる」は現世に生きている人々の視点から見て、不在になること＝目の前からいなくなることを表現したものと、推定します。ひとりぼっちになるかどうかは、天皇の視点からみてどうなるかの話ですから、「おかくれになる」という表現から推定できることではありません。
質問	別世界移住型も現世内不活性化型も生者が「死者はどうなったら幸せか」を考えてつくりだした概念ではないか。
回答	別世界移住型はそう言えるかと思います。「死者が幸せになる」ということから、「私たちも安心だ」となるためですね。現世内不活性化型は、それだけだと幸せにならないです。復活ということを付加する必要があるわけですから。
コメント	講義予定資料を読んだ際に私が考えたのは、死が別世界移行であるという思想が何故成り立ったかということと、the end of life の考え方である。死が別世界移行と見なされるようになったのは、人々が死んだ後身体から抜け出した魂の行き場所を考えた際に、現世界において魂は目が見えないため別世界に魂が移行していると考えたのではないかと思う。また、death は dying が基という考えから death と dying の違いを考えてみた時 dying は完全には死んでおらず死に向かっているニュアンスがあることに気づいた。そのため the end of life は生きていながらも死へと向かっている死の過程を示しているのではないかと考えた。
回答	魂を実体的に捉える考えのほうが「どこかに行った」より後と言えるようにも思えます。「魂は目に見えないため」というより、むしろ、個人の個人である所以のものがどこかに行ったと考える場合、「何がどこかに行ったのか」と問うことができるでしょう。目の前にある遺体は生前のものと変わらないが、ただ動かないでしまっている。そうすると「活動の原理」という目に見えないものを想定して、実体化して「魂」と呼び、これがどこかに行った主体だと考えた、ということです。
コメント	生死の臨床について、お話をきかせて頂いて、大変興味深いと思いました。Dying の基準は臨床的には定めるのは難しいとは思いますが、生きている (living) ということはすなわち死に向かう過程であるという認識とすれば恒常的に人間は living & dying のプロセスにあるのでは、と思いました。
回答	dying の捉え方として、人は生まれた以上、必ずいつか死ぬのだから、生まれた瞬間から死に向っている、つまり dying だと考えることは大いにできますし、アメリカの死生学の初代のリーダーも、そういう考え方を紹介した上で、臨床の場では、dying をそのようには理解しないとしていました。
質問	Dead or alive ではなく living and dying. 発想の転換になった。文法の観点から生死について述べられていたが着眼点として良かったと思う。なるほど孤独は怖れられるものでそれをまぎらわしているというのは一般的な考えだろう。孤独への恐怖が先天的なものか否かは気になるところだ。かつて、生命の危険があり survival だった頃は孤立は死を招き、協力ができないと生き残れなかった。だが今は？孤独への恐怖はどこから来ているんだろうか？おそれすぎているのでは？
回答	人はホモサピエンス以前から群れで生きるように進化してきましたから、仲間なしに生きるのは昔はことに難しかったでしょう。孤独を恐れるのは、そのころから身についた反応なのではないかと思います。
質問	紛失と死亡は日本語ではもともとどちらも「なくなる」という1つの言葉で表されていたが漢字に当てはめた結果別々のものとなったのか？
回答	不可逆的かどうかの区別をも検討してください。紛失したものは見つかるかもしれませんが。死ぬという意味で亡くなったものはどうでしょう。
質問	コメント：死者の世界へたずねてゆくという点に関して日本とギリシア世界の共通点が多いことに気づかされました。 質問：死者の世界へ行く物語が人類の進化のどの時点で成立していたのでしょうか。それとも、1つの地点で生まれた物語があとから伝わったのでしょうか。
回答	シルクロードや正倉院のことを思うと、ギリシアと日本は文化的につながっていると言えるのでは？その間の国々の文化もみてみないとなりませんがね。別々に同じようなことを考えたということはないといえませんが。また口寄せ＝降霊術は結構広い範囲でなされているようです。
コメント	英語の文法から人の生死について考えてみるというやり方が面白かった。

コメント	英語の例を用いて死について考えることができ楽しかった。
コメント	“死んだ”と“死んでいる”といった状態の違いを生命の機能と人生の両方によって説明しているのがとても印象的でした。
コメント	人生とは人々と交わり、自らの物語りを紡ぎながら生きていくことで交流の断絶を死と捉えており、生命とは個々が活動することで活動が絶えることを死と捉えるというのは私の中で新しい発想でした。また、dying というプロセスが臨床的に、もはや回復傾向になる可能性なく死に向かっている状況であるということも初めて知りました。これらの新しい観点も自分の中に取り入れこれからいろいろと考えてみたいと思う。
コメント	日本とギリシャという遠い国の神話どちらにも、よみの国があるという事実が面白く興味がわきました。
講義内容以外について	
回答済	○ 先生はどの点から生きていると考えますか？
質問	他界とはいつごろからできた言葉ですか。
回答	興味があったら、調べてみてください。
質問	先生は自殺についてどう思いますか？
質問	若者の「死にたい」という言葉を利用悪用し座間での事件は起こった。私は様々な本を読んだが生死への考え方に男女で性差があると思う。今回の事件では1人以外、被害者はみな女性だ。(単純に体力で勝つてるとかそういうものはあると思うが。)そして、あるデータを閲覧した記憶がある。それは自殺未遂、リストカットをした人の割合は女性>男性だが、実際に自殺をした人の割合は男性>女性だ。多感な中高大の生徒は「死にたい」のではなく分かってほしかったのだろう。現在増える、若者の「死にたい」と思う人、自殺者についてどう思うか。生死の考えに対する男女の性差についてどう思うか。
回答	コメントできる蓄積がありませんので、ノーコメントです。
コメント	一般参加の者です。貴重なご講義を聞くことができ、嬉しく思いました。ありがとうございます。私はクリスチャンなのですが、キリスト教における“死”の理解について、信仰とは別の観点から考えるきっかけを頂き、ありがたく思いました。できれば、もう少し詳しく伺いたく思いました。
回答	私が「X は死んでいる」と言える場合、言えない場合を考えたのは、むしろキリスト教、とくにパウロの死と復活の思想を考えるプロセスにおいてでした。パウロ書簡における、信徒は「世にある」が「世に対して死んでいる」というような表現（記憶だけで書いていますので正確ではないかも）が気になっていたのです。こうしたことを信徒としてお考えになると、面白いかもしれません。
質問	スライドで死（dead）の状態を生（alive）の状態の下段にしているのは無意識かそれとも意図があるのか。
回答	単にイメージの問題です。立っている姿と横たわっている姿で alive と dead を描き分けるのを分かっていただければ、その延長上だと思ってください。